

第9回学術集会報告

第9回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 武居 光雄

医療法人光心会理事長、諏訪の杜病院院長

副会長 平松 義博

医療法人豊泉会丸山病院理事長

平成31年3月8日から10日まで、第9回学術集会を大分県別府市ビーコンプラザで開催致しました。九州では2回目となる学術集会でしたがおかげさまで約1,300名の皆様に御参加頂き深く感謝致します。一般演題数は204題、シンポジウム等のセッション91題の計295題と多くの演題を頂き、無事盛況のうちに終了致しました。御参加、御支援下さいました個人及び法人の皆様には心より深く御礼申し上げます。

今回の学術集会のテーマは、大分県が生んだ福沢諭吉に因んで『腎臓リハビリテーション、理論と臨床の融合～腎臓リハのすゝめ～』と題しました。運動療法、食事療法、教育、精神・心理社会的サポートを行い、トータルとしてCKD患者を支える、長期にわたる包括的プログラムである腎臓リハビリテーションを、理論に基づき進歩させる事でさらに臨床普及させる事を目的としました。そのために本学術集会において、会長講演、特別企画、教育講演、シンポジウム、日本リハビリテーション医学会・日本心臓リハビリテーション学会・日本透析医学会・日本腎不全看護学会・日本フットケア学会・日本理学療法士協会日本作業

療法士協会日本語聴覚士協会とのジョイントシンポジウム、よくわかるシリーズ、YIAセッション、国際セッション、How to session、教育デモンストレーションなど多数の企画を設けました。なかでも、特別企画で高橋英悟住職に『命の尊さ』の講演及び、さだまさしさんに『風に立つライオン基金としてのボランティア』と題する講演とコンサートをお願いしました。今後益々重要となってくる就労支援及び多職種協働をテーマとしてシンポジウムで取り上げました。『診療報酬』についても最新の情報を提供しました。また、第1回腎臓リハビリテーション指導士試験が行われ、285名の合格者を輩出できました。どの会場も、あふれんばかりの熱気と活発な質疑応答が見受けられました。懇親会では、別府名所ヒットパレードクラブを貸し切り懐かしいオールディソングに耳を傾け、踊りながら郷土料理と地酒を楽しみ、多くの皆様と交流を深めることが出来ました。最後に、本学術集会開催の機会を頂きました事に深く感謝致します。今後も更なる腎臓リハビリテーションの発展を願うとともに、本学会の益々の繁栄を祈念致します。



開会式：廣瀬勝貞大分県知事、長野恭紘別府市長



懇親会：別府ヒットパレードクラブ



さだまさし氏、高橋英悟氏



スタッフ集合写真